



京都大学新聞社  
京都府左京区吉田京大構内  
(075) 761-2054 直通  
(075) 753-7531 (内線2571)  
FAX (075) 761-6095  
E-mail: kup@ops.dti.ne.jp  
振替 01020 - 3 - 3909  
1部 100円

# 京大植物園

## 考える会が 提案書を提出

京大理学部付属植物園(京大植物園)に関して、園内の樹木伐採や整備を担う非常勤職員の雇用問題など、一連の運営に対して一部利用者から不満の声が挙がっている問題で、利用者・近隣住民などで構成される「京大植物園を考える会」(考える会)が二〇〇三年十二月十九日、理学部植物園運営委員会(運営委員会)に対して、「管理運営方針に対する提案」を提出

していることが分かった。一月十九日までの回答を求めているが、運営委員会の対応はなされていない。考える会は〇二年の樹木伐採をきっかけに学内外の有志によって設立された組織で、京大植物園の観察会や勉強会などを開催し、利用する立場から園のあり方を考えてきた。代表は琵琶湖博物館長の川那部浩哉氏と河野昭一氏が務める。両氏とも京大名誉教授。考える会は〇三年十一月十六日に「京大植物園八〇周年記念シンポジウム―温故知新―」を開催しており、その場で集められた意見を集約した形の提案書提出となる。

提案書は運営委員会と同時に笹尾登・理学研究科長、長谷あきら・理植物学教室主任と尾池和夫総長にも渡されている。内容は、京大植物園の生物群の多様性と数々の研究、教育に利用されてきた点を挙げて、植物園の重要性を示していることに加え、二〇〇二年の樹木伐採問題に関し、目的や決定過程に不確実な点があった原因は、現在の管理主体である理学部植物学教室内の研究課題や研究者の関心の変容の影響が大きいことを指摘している。また最後に京大植物園の運営に関する考える会の希望として、研究・教育の場として自由に利用できること、生態系を考慮し面積を減らさないこと、全学から利用されるような組織のあり方を予算面なども含めて模索すること、運営に利用者の声を反映させるシステムを作

ること、運営に外部評価を導入し情報公開をすること、を求めている。運営委員会のメンバーは岡田清孝(植物学)委員長、堀道雄(動物学)、戸部博(植物学)、曾田貞滋(動物学)、平野丈夫(生物物理学)、加藤重樹(化学)、西田吾郎(数学)の理学研究科教官となっている。提案書からは、法人化により植物園の消滅・質的低下の危機感が感じられる。情報公開や利用者の声を含めた運営方針など、運営委員会には早期の対応が期待される。